

あなたの生活と行政をつなぐ

Saku LIFE

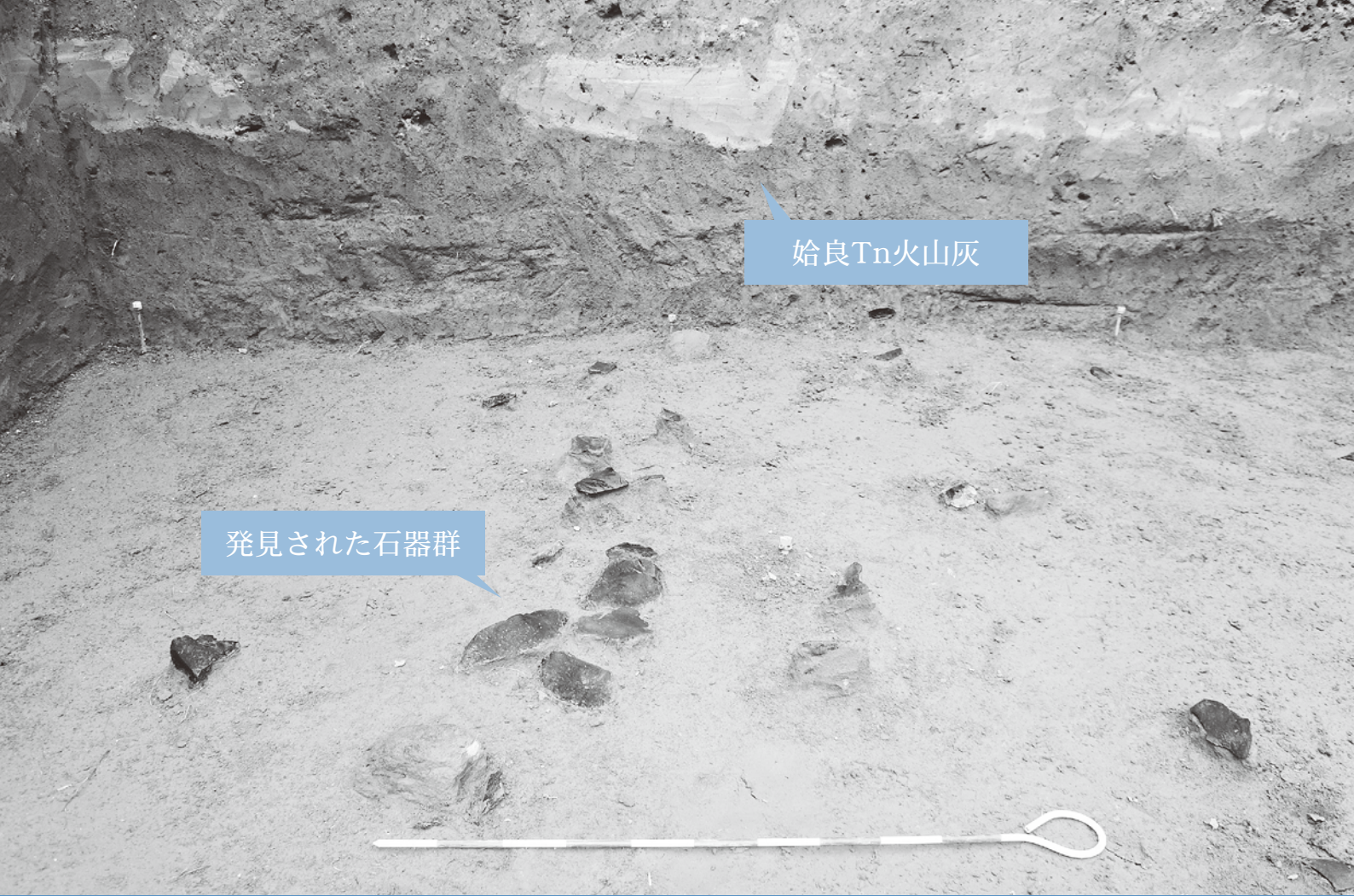
9

No.222 広報佐久
令和3年9月



【表紙】

エストニア共和国 ケルスティ・カリユライド大統領が佐久市を来訪
東京オリンピックで金メダルを獲得した同国フェンシング女子エペ団体（事前合宿の様子）



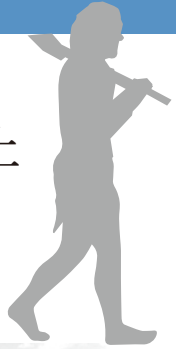
始良Tn火山灰

発見された石器群

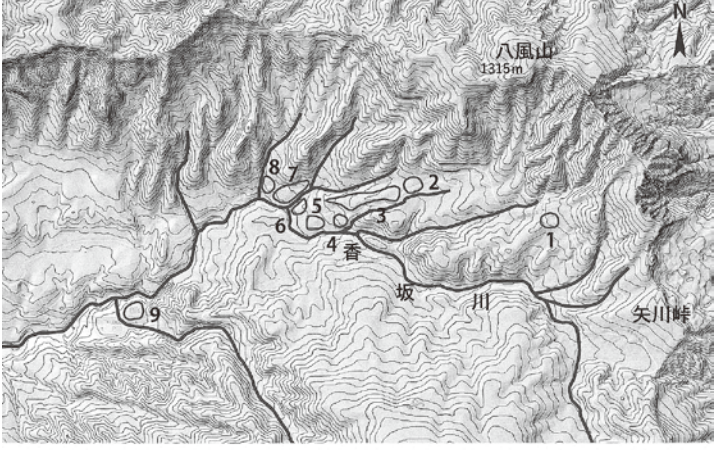
特集 香坂山遺跡から発掘された旧石器

■問合せ 文化振興課 (文化財事務所) ☎63-5321

現生人類はいつ日本列島へ 佐久市でカギを握る「石器群」が国内で初めて出土



私たちの直接の祖先といわれている現生人類（ホモ・サピエンス）は、アフリカ大陸を旅立ち、日本列島に住み始めたといわれています。では、いつ頃から住み始めたのでしょうか。この謎を解くカギが、なんと佐久市香坂の地中深く、香坂山遺跡に眠っていることが、2020年8月の発掘調査でわかってきました。



八風山における旧石器時代遺跡の分布
(1: 香坂山遺跡, 2: 八風山I遺跡, 3: 八風山II遺跡, 4: 八風山III遺跡, 5: 八風山IV遺跡, 6: 八風山V遺跡, 7: 八風山VI遺跡, 8: 八風山VII遺跡, 9: 下茂内遺跡)

出典 香坂山遺跡2020年発掘調査成果報告書



円筒形の建物付近が調査地点
遠方に見える山は、浅間山や黒斑山。3万年以上前、香坂にたどり着いた旧石器時代の人々が見た山並みは、今とは大きく異なり、山体崩壊前の巨大な黒斑山を眺めることができたはずです。

約1か月半の調査で、地表下2 m 60 cmの土の中から、「大型石刃」「小石刃」「尖頭形剥片」という3種類の石器が、まとめて出土しました。これらの石器の同時発見は、国内で初めてのことです。

また、石器が出土した地層から同時に発見された炭化物を科学的な方法で年代測定すると、なんと3万6800年前という数字が示されました。この石刃石器は、国内で最古の年代を示す資料となりました。



始良Tn火山灰

石器出土層

あいら
始良Tn火山灰層
(地表下2 mの白いかたまり部分)

現在の鹿児島湾付近に存在したとされる巨大火山で、約3万年前に大噴火が起こったとされています。

この火山の火山灰は、西日本をはじめ、東北地方や朝鮮半島にも降下した痕跡が確認されています。

国内の旧石器は、この火山灰層が年代決定の第一のカギとなっています。

遺跡発見者インタビュー



次々に掘り出される石器群。予想を超える発見に思わず石器に見入る国武さん(右)と須藤さん(左)。(堤 隆氏撮影)

包丁のような細長い刃物である石刃は、ヨーロッパからアジアに現生人類(ホモ・サピエンス)が登場した後期旧石器時代の特徴的な石器です。これが日本列島でいつ始まったのかは、考古学上の大きな問題でした。

佐久市の香坂山遺跡にはユーラシアの現生人類(ホモ・サピエンス)最古の文化と共通する石器群が埋まっているのでは?という直感から発掘を始めたのですがそれが妄想ではなく、「その通りかもしれない」、「当たっている」と確信した瞬間を捉えたのが左の写真です。発掘調査を始めて15日目のことでした。

小石刃、大型石刃に加えて、これまで日本の後期旧石器時代では未確認で、ユーラシア最古段階の現生人類(ホモ・サピエンス)文化に共通する中期旧石器的な尖頭形剥片が、目の前に続々と姿を現したのです。

事の重大さに息をのみ、^{おそ}慎れを感じた瞬間でした。



国立文化財機構
奈良文化財研究所
考古第一研究室長

くにたけ さだかつ
国武 貞克さん

平城宮跡調査に従事しているかたわら、中央アジアで旧石器遺跡を発掘調査。

石器が見られるチャンス！
速報展
「香坂山遺跡出土の旧石器」

香坂山遺跡から出土した石刃を、文化財事務所併設の考古遺物展示室で展示しています。

展示期間を延長しました。この機会に、ぜひご覧ください！

- 期間 9月17日(金)まで (平日のみ)
- 時間 午前9時～午後5時

特別講演会

「佐久市香坂山遺跡の調査成果について」
～香坂山遺跡から見える後期旧石器時代の始まり～

- 講師 国立文化財機構
奈良文化財研究所
考古第一研究室長
国武貞克氏
- 日時 9月18日(土) 午後1時30分～
- 場所 市民創錬センター大会議室
- 定員 100名
- 申込方法 文化財事務所へ電話で
申し込み (☎63-5321)
- 申込開始 9月6日(月) 午前9時～



刃部磨製石斧

大型石刃

小石刃核

小石刃

尖頭形剥片

大木文彦氏 撮影

現生人類が佐久の地にきた理由

この調査で発見された尖頭形剥片、大型石刃、小石刃の3点は、分析の結果、ユーラシア大陸で発見されている後期旧石器時代のはじめの頃の石器群と、組み合わせやつくり方が瓜二つであることがわかりました。この発見は大陸から列島へ、人の動きを具体的に指し示す物証となる可能性があります。

日本列島にたどり着いた現生人類（ホモ・サピエンス）が、大陸由来の石器を携え、この佐久の地を訪れた理由は、石器の製作に良質な石材「ガラス質黒色安山岩」が手に入ることが第一の理由だと考えられています。

その後も、八風山周辺に旧石器遺跡が確認されるということは、当時の人々にとって、佐久の地が重要な場所であったことの証です。

旧石器研究者インタビュー



明治大学
黒耀石研究センター
特別嘱託

すとう たかし
須藤 隆司さん

ガラス質黒色安山岩原産地遺跡のスペシャリスト。佐久市の旧石器時代遺跡を初めて調査。

佐久市香坂の八風山はガラス質黒色安山岩と呼ばれる「鋭く割れる」石器資源の原産地です。

私が発見した八風山Ⅱ遺跡からは、先のとがった石刃と呼ばれる石片を打ち割る方法で作られた石槍が出土しました。今までこの石刃づくりの年代が日本列島最古の年代を示していました。

今回、香坂山遺跡で発見された大きな石刃づくりの年代は、さらに遡ることが判明し、その石刃づくりの方法は、私の予想を超え驚くべきもので、ユーラシア大陸の狩人のつくりかたにそっくりでした。

八風山石器資源のパイオニアたちのルーツは、大陸で発明された石刃づくりを学んだ狩人であったのです。彼らはどのようなルートで香坂山遺跡にたどり着いたのか。

今年も行われる謎解きの発掘調査にご期待ください。



発掘調査状況
出土している石器層の深さがよくわかる。後ろの白い建物が航空写真の建物。